

「科学技術政策特論」からのお知らせ  
～ 第13回講義は核融合に関する国際協力がテーマです～

履修予定の有無に関わらず、学部生、文系、さらに教員の方のご聴講も歓迎いたします

日時 7月12日(金) 5講 (16:30-18:00) 場所 工学研究院  
オープンホール (B-201)

## 第13回

# 国際科学技術プロジェクトの立ち上げの実際 ～国際熱核融合実験炉計画(ITER)の現場から～

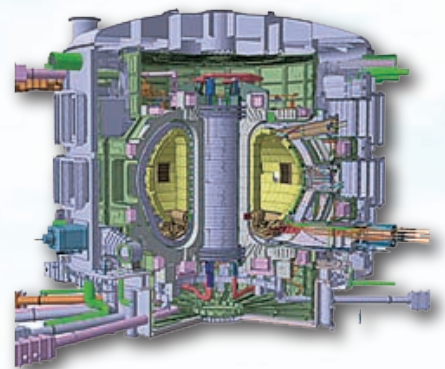
ITER (国際熱核融合炉実験炉) 機構 前機構長  
池田 要

### 池田先生からのメッセージ

EU、日、露、米、中、韓そして印という7極の国際協力による核融合実験炉(ITER)プロジェクトの責任者として南フランスの現地に赴任し、組織作りから始め、建設本格化にいたるまで4年余りの間の取り組みを報告します。

### ■「ITER(イーター)」とは

国際熱核融合実験炉(ITER)計画は、平和目的の核融合エネルギーが科学技術的に成立することを実証する為に、人類初の核融合実験炉を実現しようとする超大型国際プロジェクトです。1985年ジュネーブでの米ソ首脳会談をきっかけとして開始され、現在、2020年の運転開始を目指し、南フランスのカダラッシュにおいて日本・欧州連合(EU)・ロシア・米国・韓国・中国・インドの7極により進められています。



### 池田 要 先生

1968年 東京大学工学部原子力工学科卒 科学技術庁入庁。在アメリカ合衆国日本大使館参事官、通商産業省大臣官房審議官、科学技術庁研究開発局長、同科学審議官、宇宙開発事業団理事、外務省在クロアチア日本大使館特命全権大使を経て、2006年にITER機構長予定者としてカダラッシュに赴任。2007年11月に機構の正式発足とともに機構長に就任、2010年7月まで機構長を務め、国際科学技術共同プロジェクトを牽引した。現在は(一財)リモート・センシング技術センター理事長。